

茶臼山しだしだトレッキング

シダと樹木の名前を覚え歩き！



ここへ登る (鉄塔は無線中継所、その左あたりが山頂)

ホウライシダ見つけたよ！

「西尾いきものふれあいの里」に集合し、いつものように乗り合わせて、深篠広場 (駐車場) へ。

山頂 (恐らく)



位置拡大

里から見ると



茶臼山の概略

- 西尾市吉良町と額田郡幸田町にまたがる、標高291mの里山。
- 樹木、きのこ、シダ等の種類も多く、観察会にとってうれしい山。
- 滝 (平原の滝・小町の滝・幻の滝) あり沢あり眺望ありの良い山であり、短時間で登ることもできるので、『登山者』が多い。
- ただし、道が多く、間違ふと思わぬところへ出てしまうので注意を要する。
- 無線中継所 (「NTTDoCoMo東海」吉良無線中継所)、城址 (茶臼山城)、のろし場跡、見晴台、洞穴 (防空壕跡?) など、立ち寄りスポットも多い。
- ◆茶臼山城 (中世の山城。標高260m。西尾市と幸田町の行政界上にある。場所は通称；西茶臼)
 - *曲輪、堀切、土塁が残る。(規模 100×60m)
 - *吉良氏 (東条吉良氏) によって築かれたらしい。(吉良氏には、東条家と西条家がある)
 - *城主に大高弾正、大蔵弾正、松平弥左衛門の名があがるが、はっきりしない。
 - *『吉良町史』では東条城の詰城 (麓の東条城が攻撃された場合に、籠る山城) だったという。しかし、1561年の家康による東条城攻めの際には、使われないまま降伏した。また、東条城から距離が遠すぎ、どう機能したのか怪しむ声もある。(本当に詰城か?)

●登山開始 9:22



今回のルートは、

- 深篠広場
- ↓
- 中尾根
- ↓
- NTT中継所
- ↓
- 山頂
- ↓
- 小町の滝
- ↓
- 深篠広場

●最初のシダ発見 9:24 (リョウメンシダ)



●リョウメンシダ (両面羊歯) 9:25



- ◇オシダ科カナワラビ属。
- ◇全国各地の山地の谷間や斜面の湿ったところ（暗い林内）に生える大型のシダ。三河地域には多い。
- ◇葉の両面が同じ色をしている。ソーラスがない部分の葉はしわがあり、表と裏が同じように見え、これが和名の由来。

裏



●シシガシラ (獅子頭) 9:26



- ◇シシガシラ科ヒリュウシダ属。
- ◇全国に分布し、山道の路傍などによく生育する常緑のシダ植物。
- ◇孢子葉は羽片がまばらにつき、やや長い葉を立ち上げる。最初直立し、赤色を帯びることが多い。やがて緑となってやや頭を傾げる。
- ◇放射状に葉を広げるが、斜面に生育していることが多く、斜面方向に葉が垂れ下がる傾向がある。このような様子を獅子のたてがみに例えたのが和名の由来。

●ウラジロ (裏白) 9:28



- ◇ウラジロ科ウラジロ属。
- ◇日当たりのよい乾燥した丘陵斜面に生える。
- ◇分布は関東以西から西南諸島まで。
- ◇名前の由来は葉の裏が白いからで、正月の注連飾りや餅の飾りとして馴染み。

裏

●コシダ (小羊歯) 9:29



- ◇ウラジロ科コシダ属。
- ◇福島・新潟県以西～九州。
- ◇ウラジロに似ており、裏も白いが小さい。葉が繰り返して二又分枝する点で異なる。

(元がひとつで先が2つに分かれる)



●急な登りに 9:29

●ヒサカキ（柃） 幼木 9:30
 姫柃(ヒメサカキ)が短縮されたと言われる。



蕾
 付き初め
 9:34

- ◇モッコク科ヒサカキ属。常緑小高木。雌雄異株。普通は樹高が4-7m程度になる。
- ◇葉=互生。やや倒卵状楕円形で、丸い鋸歯がある。厚みがある革質で、表面はつやが強い。葉の先端は、ほんの少しくぼみがあることが多い。
- ◇花=花期は3~4月、枝の下側に短くぶら下がるように多数咲く。花は白っぽいクリーム色で壺状で、強い芳香を放つ。

●カクレミノ（隠蓑） 9:33



- ◇ウコギ科カクレミノ属。常緑小高木~高木。
- ◇高さ3~8mになる。樹皮は灰白色。
- ◇葉=若木の葉は深く3~5裂するが、成木では広卵形になり、切れ込みはない。枝先に互生。



●ネジキ（捩木） 9:36



- ◇ツツジ科ネジキ属。落葉小高木。
- ◇冬芽=2個の芽鱗が向き合う。大きな葉痕。
- ◇三大美芽（ネジキ・ザイフリボク・コクサギ）のひとつ。

10:12

参考写真↓

●クスノキ（樟・楠）、クロバイ（黒灰） 9:39



葉痕;豚の鼻
 芽鱗;イギリス近衛兵の帽子



クスノキ

- ◇クスノキ科ニッケイ属。常緑高木。葉の寿命は1年間。
- ◇各部全体から樟脳の香りがする。
- ◇「巨樹・巨木林調査」(幹周・13.4報告・環境省)のトップ7のうち5本はクスノキ。トップ20中では11本。

クロバイ

- ◇ハイノキ科ハイノキ属。常緑小高木。
- ◇高さは10mほど、幹の太さは30cmを超えることもある。幹は灰褐色から黒褐色。

●ネズミサシ（鼠刺） 9:46



- ◇ヒノキ科ビャクシン属。常緑針葉樹（低木～小高木）。
- ◇葉の先端は鋭くとがって触ると痛く、鼠さえも刺してしまうというのが語源。園芸上では杜松（としょう）と呼ばれる。
- ◇高さ5～6m、大きいものは10mに達する。樹皮は灰色を帯びた赤褐色。薄くはがれる。

●ヤブニッケイ（藪肉桂）

9:36

10:38



- ◇クスノキ科クスノキ属。常緑高木。
- ◇樹高10～15m。
- ◇葉は互生し時に対生、ほぼ、等間隔に枝につく。もむとかすかにシナモンの匂いがする。右右左左で生える（コクサギ型葉序）。

●将来の自然観察指導員育成 9:48-49



●シラカシ（白樫） 9:51



- ◇ブナ科コナラ属。常緑高木。樹高 約20m。
- ◇材木にしたとき白いのでシラカシ。樹皮は褐色で黒く見えることからクロカシとも呼ばれている。
- ◇葉= 5～12cmの長楕円形で互生し厚い。細め。上半部の縁には鋸歯があり、表面は濃い緑色でつやがあり、裏面は灰緑色。
- ◇普通はもっと高いところで自生。ここでは珍しい。

●アラカシ（粗樫） 9:52



●シラカシ（左） & アラカシ（右） 比較 9:52



- ◇ブナ科コナラ属。常緑広葉樹。
- 樹高 約20m、直径60cmほどになる。
- ◇樹皮は黒っぽい灰色。
- ◇葉=互生。楕円形で硬く、中央から先に粗い鋸歯がある。裏面は緑灰褐色・絹毛がある。
- ◇果実（堅果）は、いわゆるドングリのひとつになる。殻斗（ドングリの入っている台のような部分）は環状。

シラカシ：細かい鋸歯が葉の3分の2ほどある。
アラカシ：大きく鋭い鋸歯が葉の半分ほどある。

●ホソバオキナゴケ (細葉翁苔) 9:54



- ◇シラガゴケ科シラガゴケ属
- ◇樹木の根元、切り株、朽ち木上などに丸く盛り上がった群落を形成する。
- ◇葉は光沢があまりない。密で3~4mm。湿ると緑が濃く、乾燥すると白みを帯びる。

●ソヨゴ (冬青) 9:57



- ◇モチノキ科モチノキ属。常緑小高木。
- ◇関東地方・新潟県以西の本州・四国・九州に分布
- ◇波状の葉がそよそよと風に揺れることから命名。
- ◇硬くて緻密な材はソロバンの玉や工具の柄に使われる。



参考写真

●コシアブラ (漉油) 10:02 このコシアブラは、この山で一番！



コシアブラ冬芽
頂芽=円錐形。
芽鱗に包まれる。

葉痕=V字形で、
冬芽のまわりをとりまく。

芽鱗とは；葉または花になる芽を覆って保護するウロコ状の小片。

葉痕とは；葉が枝についていた所に残るあと。

- ◇ウコギ科ウコギ属。落葉高木。
- ◇樹高は7 - 10m、ときに20mに達するものもある。枝および樹皮は灰白色。
- ◇春先に伸びる独特の香りを持つ新芽は食用となり、山菜として扱われる。
- ◇葉=枝先に互生でつく掌状複葉。鋸歯。

●ヤマモモ (山桃) 10:06



- ◇ヤマモモ科ヤマモモ属。常緑樹。雌雄異株。
- ◇成木は20mほどになる。幹は太くなると灰白色の樹皮に覆われ、多数の楕円形の皮目を持つ。古くなると縦の裂け目が出るが多い。
- ◇葉=細長くて厚く3枚ずつ輪生し、夏から秋にかけて、淡紅色か白色の花を咲かせ、核果が赤い粒で覆われる。



参考写真

●ナツハゼ (夏櫨) 10:15



冬芽を観察。



- ◇ツツジ科スノキ属。落葉低木。全国の山地・丘陵地に生育。
- ◇花期は5-6月。新枝の先端に長さ3-4cmの総状花序を出し多数の花を下向きにつける。
- ◇葉=荒い毛があり、触るとざらつく。
- ◇実=ブルーベリー的一种。
- ◇ハゼノキのような紅葉が、夏に見られることから名づけられた。

◇葉の色は日照条件とも深い関係があり、林内の半日陰の場所に生育している個体では、紅葉の赤い色が鮮やかではない。



実



蕾 参考写真

花

4月30日

●ウスタビガ (薄手火蛾) 10:18



◇チョウ目ヤママユガ科。
大きさ(開張) 75-110mm。

◇「手火」=ちょうちん



参考写真

マーキング



細い木の枝に繭の糸を絡ませてついている。

参考写真

●イソノキ (磯の木) 10:23

- ◇クロウメモドキ科イソノキ属。落葉低木。雌雄異株。
- ◇本州、四国、九州の山地に自生。高さ3~4mになる。
- ◇やや湿った場所に生育することが多いが、乾燥する尾根筋にも生育する。(共通点は日照条件が良いこと)
- ◇葉は2枚ずつ互生するコクサギ型葉序。(単なる互生の形をとる部位も少なくない)
- ◇樹皮は灰褐色。縦に浅く裂け、淡褐色の皮目が並ぶ。本年枝は赤褐色。

●タカノツメ (鷹の爪) 10:29



- ◇ウコギ科
タカノツメ属。
- ◇落葉小高木または高木
- ◇冬芽の形からの名前。湾曲してつき、葉痕は目立たず、皺だらけ。コシアブラは冬芽が小さく、葉痕がV字型。



←コシアブラ

ウコギ科
↓
葉痕が
襦袢入のよう
(維管束痕)

●コウヤボウキ (高野帚) 10:35



- ◇キク科コウヤボウキ属。落葉小低木。
- ◇草のように見えるが木。
- ◇60-100cm。
- ◇枝(茎)=細いが木質化していて硬い。
- ↓
この枝を束ねて帚を作り、竹帚のかわりにした。

◇高野山では、弘法大師の教えで果樹や竹など商品作物の植栽を禁じられていた。

●ホツツジ (穂躑躅) 10:36

ヤマボウキ (枝を束ねて箒に) の別名あり。
珍しい木です。

10:43



10:37



枝に稜 (りょう)

- ◇ツツジ科ホツツジ属。落葉低木。ホツツジ属は本種一種のみ。日本特産。山地・山里に自生。
- ◇高さは1mから2mくらい。花が穂状につく様子から、「穂つつじ」という名がついた。
- ◇葉=枝先に集まって互生につく。葉の形は楕円形で長さ5cm、先端は尖り、縁は全縁。
- ◇枝分かれが多く、小枝は赤褐色、尖った3稜があり (三角)、無毛。
- ◇全株が有毒。特に葉には強い毒がある。(口にすると頭痛、吐き気、痙攣)



参考写真

10:45

●タブノキ (榊の木) 10:40



- ◇クスノキ科タブノキ属。常緑高木。高さ20mほど。
- ◇葉=互生、全縁。枝先に集まってつく。長さ8~15cm。倒卵形。革質で硬く、表面はつやがあって深緑。
- ◇若い枝は緑色で、赤みを帯びる。芽は丸くふくらむ。

●コマユミ (小真弓) 10:49



- ◇ニシキギ科ニシキギ属。落葉低木。
- ◇北海道から九州まで日本各地の山野に分布。高さ1~3m。
- ◇小さいマユミの意。しかし、種としてはニシキギの品種。

●頂上 10:55



10:56

何?
審議中



おやつ後 11:06



●下山 11:11 アラカシ確認



●シイ（椎） 11:12



- ◇シイはブナ科クリ亜科シイ属の樹木の総称。常緑広葉樹。雌雄同株。
- ◇葉はつやのある深緑、やや卵形で先端が伸びた鋭尖頭全縁あるいは弱い鋸歯がある、また葉の裏は金色がかって見える。
- ◇日本のシイ属＝「スダジイ」「ツブラジイ」の2種が分布。

●アオキ（青木） 11:23



- ◇ミズキ科アオキ属。
- ◇常緑低木。枝も青い。
- ◇葉は約20cmと大きく艶があり荒い鋸歯がある。
- ◇雌雄異株で 赤い実のなる雌株が庭に植えられる。
- ◇高さ：2～3m。



●ツガサルノコシカケ（梅毒腰掛） 11:24



- ◇ツガサルノコシカケ科ツガサルノコシカケ属。
- ◇針葉樹を好んで発生するサルノコシカケ。全体が固くしっかりしてる。
- ◇傘は初め白色の半球形、次第に半円形～扇形にせり出す。
- ◇白いのは成長している傘の端だけで、上部表面は黄→茶→黒と変化する。

●ヤマザクラ（山桜） 11:26



- ◇バラ科サクラ属。
- ◇落葉高木。
- ◇日本の野生の桜の代表的な種。
- ◇若葉と同時に開花。
- ◇時に樹高30mを超える。
- ◇樹皮は紫褐色。皮目は横に長くなる。

参考写真



●洞穴 11:29



- ◇防空壕（？）と言われている洞穴。大きさも深さもそこそこである。しかし、里からかなり離れたこんな山中に防空壕はおかしい。
- ◇戦時中、山頂付近には高射砲台があったという。となると、兵隊さん用の防空壕か。
- ◇軍事物資や砲弾の格納庫だった、という意見もあるが、その方がらしい気がする。
- ◇“いずれにしても、「戦争遺跡」だ。”というのが、三浦さんの意見。納得👍。
- ◇この山には同じ様な洞穴が他に十数個存在する。…らしい！！
- ◇防空壕ツアーというのもあるとか…ホント？

●「小町の滝」 11:36



11:37



- ◇深篠広場の駐車場横を流れる川の左側の支流に滝がある。支流にかかる滝のため、水量は余りない。
- ◇落差…5m+2m。

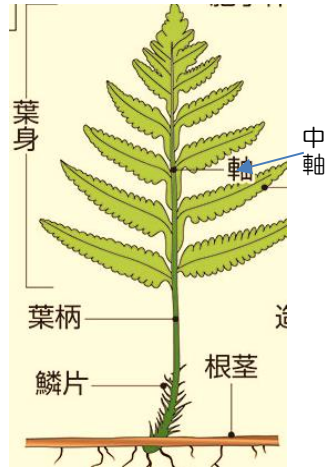
深篠池



●コバノイシカグマ (小葉の石カグマ) 11:38



- ◇コバノイシカグマ科
コバノイシカグマ属。
- ◇常緑性シダ植物。
- ◇東北南部以西～九州の山地の湿った場所に生える。
- ◇葉柄は長さ20～35cm、赤褐色～紫褐色、全体に白毛が密生する。
- ◇葉身は2～4回羽状複葉。表裏ともに荒い毛が生える。
- ◇羽片は14～16対
小羽片は卵状長楕円形で、中裂～深裂。



●ベニシダ (紅羊歯) 11:39



- ◇オシダ科オシダ属。
- ◇常緑シダ植物。
- ◇本州～九州の森林や路傍などに極普通に生育。
- ◇葉＝長さ50cm前後、幅20cm前後の2回羽状複葉。
- ◇春の新芽は全体的に紅色を帯びる(和名の由来)。また若い胞子嚢も赤い。
- ◇最下羽片の下側第1小羽片は小さく無柄で浅裂。

●クチナシ (梔子) 11:42



- ◇アカネ科クチナシ属。常緑低木。
- ◇樹高1-3メートルほどの低木。
- ◇果実＝赤黄色。先端に萼片のなごりが6本針状についている。
- ◇側面にはっきりした稜が突き出る。
- ◇栗キントン等を作るときの着色材となる。

●ヒイロタケ (緋色茸) 11:44



- ◇タマショレイタケ科シュタケ属。
- ◇広葉樹枯木上に発生する、ひと際派手なきのこ。(材上に密生)
- ◇かさ径6～7cm、かさ表面および管孔の色は朱紅色。老菌になると褪色して、白っぽくなる。
- ◇食毒；不食

●クロコブタケ (黒瘤茸) 11:45



- ◇クロサイワイタケ科
ヒポキシロン属。
- ◇広葉樹の倒木に群生。
- ◇大きさ＝0.5～1cm。
- ◇シイタケ栽培の害菌。原木椎茸に必ずと言っていいほど発生。侵食力が強く、早く成長してシイタケの菌系の成長を阻害。
- ◇食毒；不食
糞みたいだから喰わないわ～！

●ホウライシダ (蓬菜羊歯) 11:49

11:51



11:53



ソーラス

- ◇ホウライシダ科 ホウライシダ属。低地～低山の湿った岩上、石垣などに着生する常緑性シダ。
- ◇四国や九州、伊豆半島などに分布。栽培されていたものが野生化していることもある。
- ◇茎の長さは15cmほどで、茎には切れ込みのある扇形をした小葉が互い違いにつく。
- ◇ソーラスは裂片の先につき、縁が反り返ってできた楕円形または三日月状の長楕円形の苞膜につつまれる。
- ◇ソーラスのつかない小羽片は先が鈍頭、縁の歯は広三角状～微鋸歯。ソーラスのつく小羽片は先が切形～直線～わずかに凹み、縁は全縁～微鋸歯。ソーラスは上部の辺縁に3～10個つく。
- ◇江戸時代から観葉植物として栽培。

●ホラシノブ (洞忍) 11:55



●イノデ (猪手) 11:57



- ◇ホングウシダ科ホラシノブ属。常緑シダ植物。
- ◇山野に普通に見られるシダ植物のひとつで、細かく裂けた葉先が丸いのが特徴。
- ◇日当たりの良い乾燥した場所に生育する。

- ◇オシダ科イノデ属。常緑シダ植物。
- ◇常緑広葉樹林域の谷筋などに生育する。
- ◇葉柄に褐色の鱗片が多く、新葉が密に鱗片で覆われている様子がイノシシの手に似ている。

●ムササビタケ (鼯鼠茸) 11:57



●ゴンスイ (権瑞) 12:01



- ◇ヒトヨタケ科ナヨタケ属。
- ◇広葉樹の朽木や切り株上に群生。
- ◇傘は直径2～5cm。初め半球形、その後、鐘形～饅頭形～中高扁平～縁が反り返る。
- ◇食毒；可食。無味(苦味)、無臭。

- ◇ミツバウツギ科ゴンスイ属。落葉小高木。
- ◇樹皮は紫黒色を帯び、細長い割れ目状の皮目(白褐色)が縦に走る。
- ◇枝の先端に、通常2つ冬芽がつく。芽鱗は1～2対。
- ◇魚のゴンスイと、植物のゴンスイとは、語源が違うのではないかと、という説もあり。

●カラスザンショウ（烏山椒） 12:02



- ◇ミカン科サンショウ属。落葉樹。
- ◇葉＝互生。枝の上部に集まってつく。長さ30～80cmの奇数羽状複葉。葉の中軸には棘がある。裏面には多数の油点がある。
- ◇ 幹や枝の周囲に長さ1 cm前後の 鋭いトゲが多くつく。このトゲは 成木ではイボ状になる。

参考写真



※他に、観察できた樹木（今回写真記録なし）は下記の通りです。

〔常緑〕

●シャシャンボ（小小坊）



●ネズミモチ（鼠糲）



〔落葉〕

●コナラ（小櫓）



●クリ（栗）



●ヤシャブ（夜叉五倍子）



帰りま～す！

そう言えば、
なぜか、深篠池の水が抜かれていました。
数日前もそうだったそうです。



深篠池（ため池）